

司式：鮎川 健一
奏楽：橋本恵美子

前奏：「ああ主よ、哀れな罪人我を」(J. パッヘルベル)

招詞：主を尋ね求めよ、見いだしうるときに。呼び求めよ、近くにいますうちに。主に立ち帰るならば、主は憐れんでくださる。(イザ55:6, 7b)

讃美歌 297「栄の主イエスよ」

交読詩編：119:1-8

- 01 いかに幸いなことでしょう/まっつき道を踏み、主の律法に歩む人は。
02 いかに幸いなことでしょう/主の定めを守り/心を尽くしてそれを尋ね求める人は。
03 彼らは決して不正を行わず/主の道を歩みます。
04 あなたは仰せになりました/あなたの命令を固く守るように、と。
05 わたしの道が確かになることを願います/あなたの掟を守るために。
06 そうなれば、あなたのどの戒めに照らしても/恥じ入ることがないでしょう。
07 あなたの正しい裁きを学び/まっすぐな心であなたに感謝します。
08 あなたの掟を守ります。どうか、お見捨てにならないでください。

朗読聖書①イザヤ書 58:3-9

- 03 何故あなたはわたしたちの断食を顧みず/苦行しても認めてくださらなかったのか。見よ、断食の日にお前たちはしたい事をし/お前たちのために労する人々を追い使う。
04 見よ/お前たちは断食しながら争いといさかいを起こし/神に逆らって、こぶしを振るう。お前たちが今しているような断食によっては/お前たちの声が天で聞かれることはない。
05 そのようなものがわたしの選断食/苦行の日であろうか。葦のように頭を垂れ、粗布を敷き、灰をまくこと/それを、お前は断食と呼び/主に喜ばれる日と呼ぶのか。
06 わたしの選断食とはこれではないか。悪による束縛を断ち、軛の結び目をほだいて/虐げられた人を解放し、轡をことごとく折ること。
07 更に、飢えた人にあなたのパンを裂き与え/さまよう貧しい人を家に招き入れ/裸の人に会えば衣を着せかけ/同胞に助けを惜しまないこと。
08 そうすれば、あなたの光は曙のように射出で/あなたの傷は速やかにいやされる。あなたの正義があなたを先導し/主の栄光があなたのしんがりを守る。
09 あなたが呼べば主は答え/あなたが叫べば/「わたしはここにいる」と言われる。轡を負わずこと、指をさすこと/呪いの言葉をはくことを/あなたの中から取り去るなら

朗読聖書②マタイによる福音書 6:16-18

◆断食するときには

- 16 「断食するときには、あなたがたは偽善者のように沈んだ顔つきをしてはならない。偽善者は、断食しているのを人に見てもらおうと、顔を見苦しくする。はっきり言っておく。彼らは既に報を受けている。
17 あなたは、断食するとき、頭に油をつけ、顔を洗いなさい。
18 それは、あなたの断食が人に気づかれず、隠れたところにおられるあなたの父に見ただくためである。そうすれば、隠れたことを見ておられるあなたの父が報いてくださる。」

祈祷

天地万物の造り主、真の命にして贖い主なる御子イエス・キリストの父なる御神さま。御名を褒め称え賛美致します。

三月の日を重ね、少しずつ温かさを覚えながら桜の花を臨む季節になり、

受難節の恵みを重ねた今朝、主に招かれ導かれ、夫々の場において礼拝を御献げる時を与えられ、重ねて感謝致します。

これまでの日々を思い起こし、この世の罪、私たちの弱さを担い、十字架へ向かわれた御子イエスの贖いの恵みを思い起こしつつ、この時を迎えています。

過ぐる一週間、歴史の上でも、また今においても、様々な出来事にあるこの世の姿の中で、主なる神は御心に適うべく私たちを祝福の内に、また必要な物で充たしてくださいました。しかし、それでも主の御心から遠くあったことを思い、悔い改めの思いをここに告白致します。これから後、どうか、御前に立つに相応しい者となるべく、主の御赦しにありますように。

欠けの多い私たちですけれども、主なる神は、私たちを見守り、猶予を以て神の御心を知るとき、また、悔い改めと感謝の祈りを献げる時を与えてくださいました。救い主なる主イエスを、真の人にして、真の生きる神と重ねて告白します。どうか御霊の力と共に、御光の内に歩む者とならせてください。

世相の変化も、厳しい、激しい中であって、主に招かれた私たちは、不安や恐れに苛まれることも多くありますけれども、主の御教えを伝えられ、心から受け止める者として、世界の平和、また日本の平和の為にも祈ります。あなたが造られたこの善き世界が、人間の思いに破壊され、また、度重なる自然災害に心憂うこと多い者ですけれども、どうか主により頼みつつ、主の御心を知る者となりますように。共に主を見上げ、主の平和に生きる者となりますように。

主が夫々に御手を差し伸べて、苦難にある人々が、日々の苦しみから解放されますように。先んじて信仰告白した私たち、キリストに従いゆく者が、主と共に歩む自覚を益々強く持ち、地の塩、世の光として、御業に参与するべく、為すべき務めを果たすことができますように、主の正しき真理を、私たちの内に得させてください。

この厳しい世の有様の中で、主の御体なる教会の働きも、なお、宣教の戦いが続きます。困難や困窮の最中にあっても、主の御力のもとに、御業を証しすることが出来ますように。また心にありつつも、礼拝の場に集えない人々、また様々な想いであって、遠退いてしまっている人々に、主のご自愛により、新たに生きる力が興されますように。

今この時、同じくして礼拝を献げている全世界のキリスト教会の礼拝が主に喜ばれるものとされ、教会の働きが豊かに用いられますように。

これより牧者を通して御言葉が取り次がれます。主の御霊の導きを願います。また、御言葉により、これからの日々、主にある新たな命と共に生かされ、希望をもって歩めますように。

今この時、十字架へと向かわれた贖い主に希う諸教会の祈り、信仰の友の祈りに合わせ、尊き主、イエス・キリストの聖名によって御前にお献げ致します。アーメン。

讃美歌 440「備えて祈れ」

説教「心を神に向ける」 佃 雅之

キリストはある時、山に登り、腰を降ろされると弟子たちに新しい生き方を教え始められました。キリスト者の生き方、キリストの弟子として生

きる心得が纏められているのが『山上の説教』と呼ばれる箇所です。

山上の説教は5章から始まり7章の終わりまで続きますが、その丁度真ん中に、私たちが毎日・毎週祈る『主の祈り』が置かれていました。第一福音書記者マタイは、キリストが語られた順番通りに、そのまま山上の説教を纏めたわけではありません。よく考えて、キリストの語った説教の真意を汲み取って“誓ってはならない”、“復讐してはならない”、“敵を愛しなさい”というたくさんの教えがある中から、その教えの中心は、主の祈りだと理解したのです。

主の祈りの前には、『施し』についての教えがありました。そして、主の祈りを挟んで、今日の御言葉であります『断食』についての教えが語られています。施し・祈り・断食という三つのことは、当時の人たちが考える“**信仰生活の基本**”であったと言われています。祈って施しをする、祈って断食をする、祈ることによって何をするときでも、私の心がどこを向いているのか。今、私が見ているものは自分自身か、他の人か、それとも天の父なる神であるのかを確認することができます。私たち信仰者の日々の行為は、全て祈りが起点となって父なる神と結びついているものであります。祈りをもって始めなければキリストの言葉が実現することはない。決してキリストの言葉がこの身に宿らない、起こらないことを知っているのがキリストの弟子であります。

この福音書が書かれたマタイの時代、神によって生かされている者として、施しをする、祈りをする、断食をすることも度々ありました。キリストは、この三つのことについて弟子たちに一貫して同じ事を言われています。“**施しをする時には人に見てもらおうとするな**”、祈りについても“**人に見てもらおうとして祈るな**”、そして、今日の断食のところでも“**人に見てもらおうと顔を見苦しくするな**”と言われています。施しも、祈りも、断食することも、人に見てもらおうとしてするならば、“それは偽善だ、あなた方は偽善者ようになってはならない”と教えておられます。偽善者というのは裏表のある人のこと、心の中では悪いことを考えているのに表面は善人であるかのように見せかけている人のことを言いますが、ここでは、“**心が神にではなく人の方を向いている人、神が求められ神が喜んでくださるからではなく、人に褒められたくて、あの人は正しい人、立派な人だと言われたいから、施し、祈り、断食をしている人が偽善者だ**”と言われています。

施しと祈りは、今の私たちにも身近なことかと思えます。教会ではしばしば募金が呼びかけられることがあります。募金は聖書では施しに当たるものです。神から戴いた恵みを分かち合うという意味での募金、あるいは献金の大切さが聖書には何度も書かれています。祈りほもっと身近なことです。私たちは礼拝の度に、あるいは集会で、食事の前に、日に何度も祈ります。しかし、今の私たちは信仰的な理由から断食をするという人はあまりいないと思えます。

聖書には今日、朗読された箇所にある通り、旧約、新約どちらにも断食の話が書かれています。共に聞きましたイザヤ書58章には『**神に従う道**』と小見出しが付けられていて、断食と安息日を守ることを教えています。多くの註解者は、“ここに書かれていることは礼拝についての教えだ”と言っています。聖書の書かれた時代に生きた人たちは悔い改めるために、あるいは神の啓示を受ける備えとして断食を重んじたようです。しかし神はその断食を顧みない、彼らの断食を神は喜んでくださらない、それが、ここに記されている神が預言者を通して語られた言葉です。この時、神の民は断食の

元々の意味を失っていました。5節に「**葦のように頭を垂れ、粗布を敷き、灰をまくこと それを、お前は断食と呼び 主に喜ばれる日と呼ぶのか。**」とあります。この言葉は彼らを行う断食が、うわべだけのものとなってしまっていることを言い当てています。“**断食・断食・断食**”と騒ぎ立てて、見た目には首を垂れ、粗末な身なりをして悲しみ悔い改めているように見せてはいるが、かえって心は神から離れているのです。“**あなた方は、自分が神に仕えている姿を人に見てもらおうとしている、敬虔な自分の姿をアピールしているに過ぎない**”と言うのであります。

今日のキリストの言葉なら、「偽善者」ということになるでしょう。偽善に陥った人は人を審き始めます。人前に自分の熱心な姿を曝すことで“**私はあなたがと違う**”と言う思いに心が支配されています。では真の断食とはどのようなものなのでしょう。6節に主の望まれる真の断食について書かれています。断食とは「**悪による束縛を断ち、軛の結び目をほどいて 虐げられた人を解放し、軛をことごとく折ること**」。神は私たちを束縛しているこの世のあらゆる力から解放して自由にされたいのです。私たちは気づけばこの世の事柄に縛り付けられています。さらに7節「**飢えた人にあなたのパンを裂き与え さまよう貧しい人を家に招き入れ 裸の人に会えば衣を着せかけ 同胞に助けを惜しまないこと**」とあります。ここで言われていることは、他者の苦難への連帯です。私たちがどのように隣人と関わるのか、どのように隣人を愛したならその人が神を知ることができるようになるのか、私たちの愛の行為によって一人でも多くの人が神と出会うための言葉です。神は私たちを自由にして命のパンを割いて与えたい、心の貧しさに苦しむ私たちを主の家に招き入れたいと願っておられます。しかし本来は、神に心を向けて神と親しく交わるための断食が他者の苦難に寄り添うための断食が、他人からの評価を得たい自分で自分を満足させるための断食になってしまっている。神はそのような断食を喜んで下さらないのです。

今の私たちにとって、断食があまり身近なものでないとするならイザヤ書に繰り返されている「断食」という言葉を「礼拝」と読み替えることができます。3節と4節を読み変えてみますのでお聞きください。

礼拝はしているけれども真の礼拝となっていない。礼拝をかえりみず、礼拝の日にお前たちはしたいことをしている。礼拝をしながら争いといさかいを起こす者がある。礼拝をしながら神に逆らっている。お前たちが今、しているような礼拝によっては、お前たちの声が天で聞かれることはない。

厳しい戒めの言葉です。ある神学者は礼拝を“**生活の中断**”と呼びました。“**礼拝は日常の全ての思い煩いを中断して聖書の言葉にとどまることである**”と言っています。“**私たちが生活を中断することは、犯し続けている間違いや罪を中断する**”という意味を含んでいます。一切のことを断ち切って、神にのみ依り頼み、神を第一とすることが断食なのです。つまり、礼拝を献げている今、私たちは断食していると言ってもいいでしょう。断食によって自分の無力さを知り、自分の命と生活の全てを神に委ねる以外にないことを知るので。

“**断食は元々人間の命が人間から始まるものではないことを知るためにある**”とも言われています。断食によって食べ物が人間の所有物でないことを知るので。食べ物があることは当たり前ではなく感謝すべき喜ぶべきことなのです。聖書の言う断食は、人間が日常の生活を中断することによって命を与えてくださる神への感謝の思いを私たちの生活の中に立てるための証です。心も身体も全てを集中して神に身を向けるための一つの決断であります。

キリストも断食をされました。キリストが断食をされたのは祈るため

す。生きておられる父なる神と深く交わるためにされたことです。心を神に向けることに、真の断食の意味があります。ですから、キリストは“断食をしながら人に見てもらふことばかりを考えて心が神に向いてない者を偽善者”と呼びました。“大変そうだと思って欲しい、優しい言葉をかけて欲しい、苦しみに耐えてよくがんばっていますね”と言って欲しい。そのためにわざと沈んだ顔をして顔を見苦しくしている。確かに沈んだ顔つきをしていればその顔は人を引き寄せることでしょうか。多くの人が関心を示して声をかけてくれるかもしれませんが。優しい声をかけてもらったなら嬉しくなって顔を見苦しくしていることが益々心地よくさせるのではないのでしょうか。使徒パウロは“もし人を喜ばせようとしているなら、私はキリストの僕ではありません(ガラ1:10)”と語っています。そのような見せかけの交わりはどンドン神から遠ざかっていくこととなります。どちらも心が神に向けられてはいないからです。

キリストは言われます。「あなたは、断食するとき、頭に油をつけ、顔を洗いなさい。(マタ6:17)」このとき断食をしていた人たちは注目を浴びようとしてわざとボロボロの服を着て髪を乱して灰を被り、顔を白く塗って、いかにもそれらしく装っていました。彼らにキリストは“頭に油をつけなさい”と言われます。この言葉は、実際に自分の頭に油をつけるということよりも、心のことを言っています。自分の心の中で自分の頭に油をつけるのです。それは、“キリストに倣う者になれ”ということです。「キリスト」という言葉は、「救い主」という意味ですが、「油注がれた」という意味もあることはご存知のことかと思えます。頭に油をつけることで主に倣う者として頂いた喜びを味わうのです。自分が神に支配されていることを喜ぶということです。喜びに充たされたなら、顔を洗って心も清める、清い心になって神を見るのです。キリストによって断食は苦しいことではなく、むしろ喜びへと変えられているのです。断食をするということは神の前に自分の罪を告白し、神の赦しを求め、神の言葉に向かって心を開くことですから、本質的には喜びなのです。真の断食は悔い改め以外の何物でもありません。断食の意味は自分の生活が変えられることにあります。

今、私たちは礼拝を献げています。私たちは神に選ばれ、神に導かれて今ここに集められている者たちです。今、私たちの心は神に向いているでしょうか。私たちの父なる神はキリストの十字架と復活によって、私たちをご自身の真実の子としてくださいました。そして、いつでもどこでも共にいてくださいます。私たちが心を神に向けて悔い改めるなら、イザヤ書の9節にあった通り、「わたしはここにいる」と言ってくださるお方です。“どうして人に見てもらおうとするのか。なぜ人のことばかりを気にして、わたしが全て見ていることを、わたしが全て知っていることを信じていけないのか、わたしを忘れてしまうのか。その時、あなたは偽善という誘惑に落ちている。あなたに命を与えたのはわたしだ、わたしがあなたを守る、人に見られようとして、偽善者になる必要はない。わたしに信頼して生きるなら、あなたの顔は輝き出す”と主は言われています。

今、この世界には神を神とせず、神から慰められることを知らない人が、いかに多いことでしょうか。私たちが呼べば、私たちが叫べば、“わたしはここにいる”と応えてくださるお方が私たちの父です。もはや私たちはキリストによって自由を得ています。あえて、自分の顔を見苦しくしたり、人の目を恐れる必要はありません。偽善を捨て、暗い沈んだ顔を捨てることに福音の前身も、教会の将来もかかっています。私たちは心を神に向けて顔を輝かせて主の御栄光をこの世に顕すために、一人でも多くの人が天の父を崇めるようになるために、祈りつつ父なる神との生きた交わりを求め

て新しい週の歩みを始めたいと思います。

お祈り致します。

聖なる神。私たちは、あなたの霊に導かれ、今日も御前に集うことができましたことを心から感謝致します。あなたは私たちの内に、あなたご自身の命の霊を注いで生きる者としてくださいました。あなたご自身であります聖霊が、私たちの心を、あなたにのみ向ける力を与えてください。私たちが偽善と誘惑に陥らせず、あなたとの豊かな交わりの中で生きる者としてください。

主イエス・キリストの聖名によって祈ります。アーメン。

讃美歌 531「主イエスこそわが望み」

献金・感謝(西窪幸子)・主の祈り

天にいらっしやいます私たちの父なる御神さま、今日も私たち一人ひとりの名前を呼んで、ここで、またオンラインの配信を通して、あなたに賛美と感謝とを献げられましたことを心から感謝致します。

ここに集うあなたの僕が、誰も見てない所で、誰かの為にして下さった業を、あなただけが知っていてくださいます。どうか、その一つひとつを労って、あなたがその人を支えてください。

あなたは、私たちに“父よ。”と呼びかけるその恵をくださいました。また、日々の糧を与えて私たちを養ってくださっています。そのことへの感謝と、そして献身の徴として、今、献金をお献げ致しました。どうか、あなたの御用のために用いてください。そして、私たちがここから出て、日々の生活に戻るとき、あなたから戴いた恵を輝かせることができるように一人ひとりを強めてください。

この新しい一週間を始めるにあたり、兄弟姉妹と共に、あなたが教えられた「主の祈り」をもって新しい日々、一日一日をあなたと共に歩ませてください。…「主の祈り」アーメン。

讃美歌 92 「主よ、わたしたちの主よ」

祝福:主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたが一同と共にあるように。アーメン。

報告:(1)会計:2025年度月定献金袋の感謝献金・特別献金欄に「東日本大震災支援金(予算60万円)の刻印されていないが次月には整える」・維持献金についての案内。(2)小川和孝牧師牧する上山教会支援金終了の案内。(3)週報記載オンライン祈禱会の案内。

後奏:「主イエスの十字架、苦悩、痛みは」(J.G.ワルター)